

・・・雨でも休まず、184回、185回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：小原本陣の森：2月 4日：第一土曜日、森林整備、参加費300円
- ・定例活動2：若柳嵐山の森：2月19日：第三日曜日、里山交流、参加費500円
 - * 活動1・2共、暖かい汁物を準備する。心をこめて・・・。
 - * 折衝中：19日は、新月伐採、葉枯らし乾燥、建具組合協働
 - 共催：津久井県政総合センター森林課、指導：東林業。
- ・定例活動3：甲州古道復活：2月25日：第四土曜日、上野原駅前9時30分
- ・服 装：汚れても良い格好、着替え、滑らない足元。
- ・持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて・・・保険証、食器(椀・箸)。
そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしない心構え」

当会が認証の森になれた理由

- ・認証取得を最初から確信していた・・・最も重要な認証条件を最初に解決できていた。
- ・方向性を明確にした・・・森林破壊という負の遺産を子孫に残してはならない。
- ・森に対して・・・敬虔であり、調和した。
- ・何でもプラスの発想で・・・マイナスをプラスに切り替えて臨んだ。
- ・全てを受け入れた・・・森林は多様性・公益性なるが故に。
- ・円の組織にした・・・森では、老若男女・年齢・経歴・国籍、全て平等であること。
- ・地権者との信頼関係・・・理解ある地権者の方々に恵まれ、信頼関係を構築したこと。
- ・継続したこと・・・・・・・雨でも休まずと、小さな積み上げを大切にしたこと。
- ・参加者全てが各自の特技を上手に表現し、全員が主人公を演じたこと。
- ・森が好きで楽しく、面白く付き合う方法を編み出したこと。
- ・地域の人々に対して礼儀正しく謙虚に振舞ったこと。

そして・・・無理せず、楽しく、休まず、急がず、ボチボチと・・・。

現在大体、350人位の出入りがあるが、いろんな事情で来れなくなった人々を入れれば、この会に直接、関わった人々は、優に2000人を超す。川崎ネイチャーフェスティバルなど間接的な人々を加えると万人を超す。

その全員が、キチンと何らかの役割を果たしていくくれた。こんなに美しくなった「森」を沢山の人々に見せてあげたい。だから、「世界の森林を守れ」などと言いたくなったりする。

仲間、みんなが互いを思いあつた優しい心があった。森林がそんな仲間を導いてくれた。未だ未だ、あるある、森林は「木を切る人にさえ木陰を与える」がゆえに。

活動報告：小原本陣の森：1月7日（第一土曜日）

報告 佐伯みちよ

この極寒の新春早々の「小原本陣の森」になんと、40人という大人数が集った。快晴・気温ー1度。今年、初めての活動ということで先ずは、山の神様にご挨拶。集合場所に祭壇を設置し、園田さんが祭主となつて、森仲間の安全と健やかな森になるよう全員で祈願した。

さて、敬虔な気持ちを持ちながら午前中は、ボサ狩りなど神事の軽作業をした・・・が、それはお昼まで。お昼が近づくと皆、そわそわし始めた！。・・・午後は、森の中の新年会を計画しているからだ。新年会の準備班から「あつまれー」の合図があつて、先ずは餅つき大会。突く片端から大根おろしの辛味餅が飛ぶように消えてゆく。会の「自分のお神酒とお節持参」の指令が行き届いていたから、お酒や珍味もあり大いに盛り上がった。

さてさて、これからが本番。飲んで食べて・・・で済まないのが「緑のダム」の真骨頂。園田総隊長の檄が飛んだ。「サ、始めるぞ。皆、熱く森を語れ。これからの 小原本陣の森 をどう考えるか。」沢山の意見が噴出した。志を一つにして同じ目標を持つ同志が、有意義で喜びのある活動をしたいとの気持ちの表れである。新築の作業小屋と新炭窯と森の神様に見守られながら、熱い討論となった。ここは里山交流の「若柳・嵐山の森」とは異なり、森だけに集中できる深い森だ。更に進んだ森林活動の予感に胸が膨らむ。

活動報告2：若柳嵐山の森：今年最初の里山交流

前日14日夕方、マルモ出版本社で定例運営会議を開き、夕刻の帰路、かなりの勢いの雲が降っていたので、やれ、嬉や、明日は森は銀世界・・・と喜んだが、目覚め

て明け空を見ると快晴。

それでも、いや
キット、森には
雪があるだろう
と僥倖期待した
のだが、森には
陽光が燐燐と降
り注ぎ、ユの字
の片鱗もなかつた。

んで、良かったと思うことにした。

そんな森いつものメンバー40人+山梨大生17名、計57名の参加。



例年のごとく、先ず、森の神様に新年の挨拶は、昨年の無事故のお礼と本年の大いなる活動を祈願、次いで、山主の鈴木さんには、前年の報告と米寿を迎えるオジイサンの、ますますのご健康を祈願する新年の挨拶をした。

新年会場：旅荘五本松の迎えのバスが来るまでの初仕事は、福蔵寺跡地の広大な林地から協力協約D地区へ至る斜面の林床整理に取り付いた。広々と、奥の林道まで見通せる森に降り注ぐ陽の光筋が美しい。

* 新年会：於・五本松



挨拶する溝口町長

今年は何時もと少し、いや大いに違う。

当会のFSC認証取得を祝って、溝口相模湖町町長、小林津久井地域県政総合センター所長、斎藤森林部長が出席くださいました。

一介の森林NPOの新年会に行政の長と県政の幹部が出て下さるこの幸せを何としよう。そんな新年会に43名が参加した。

今年、相模原市と合併するために相模湖町最後の町長となる溝口さんとのお付き合いは8年前に遡る。

この町で活動を始めた森林ボランティアを当会を支援しようという町長選の立会い演説会で当時、殆ど理解されない森林活動の中で溝口町長のみが理解者と言う状況であった。当会は、この方から大いなる精神的な支援を受けて育ってきた。その恩義を忘れてはなるまい。

また、小林所長は昨年、「ボランタリー基金21」の推薦者、言わば保証人になって下さったのだが、この新年会で、県政と共に森の将来を担っていこうと呼びかけていただいた。新年会参加の会員は、肅として声なく、これらの励ましのお言葉に聞き入った。

次いで今年、FSC推進について功労のあった、篠田・林・藤島3人の「特別功労賞授与」は、全員の納得の拍手で迎えられた。厳粛なる儀式としての新年式は、ここまで。

司会進行を伊藤小夜子仲間、白石晴樹仲間にバトンタッチして宴席が弾けた。先ず、各グループごとに舞台に出て各自本年の抱負は、全員確固たる目標にユーモアを交えて発表。それが半端でないんだなー。誰一人として尻ごむことなく堂々として明朗快活。

さて、お待ちかねの「ムササビ劇団」の初舞台は、清水圭司脚本、白石晴輝舞台総監督により演じられた。演目は「ハーヤー脣下、初夢お目醒めの巻」。何んと主役は意外意外、何時も無口で静かなあの入江敦仲間。が、それが違った。飄々として堂々たる脣下振り、そして次々に繰り出す仲間たちの名演技ぶりには、驚いた。一見、ドタバタ劇に見えるこの初舞台からいろんなことが見えてきた。即ち、会の結束の固さ、各会員の個性とスキルの高さ、知的レベル、同じ志を持つもの直向きさ。何事も手抜きしない真面目さ・真剣さ。ユーモアと協調性。腹を抱えて笑いながら、胸にジーンと来る喜びが何時の間にか俺いら、涙ウルウル。

入江仲間の迷・名演技の誰いうともなく「脣下称号」は「ハーヤー脣下からイーリー脣下」にバトンタッチすることとなった。どうやら多分、「脣下称号」は毎年、バトンタッチされることになるだろう。宴は、時間の3時30分にピタリと終了、全員手分けしての跡片付けも15分間で仕上げ、会場は何もなかったような静寂を取り戻していた。

定例運営会

報告 運営委員会

FSC認証以後、内部体制の強化が必要となった。4半期ごとに、定例運営会を再開することとなった。本日14日はその2回目。マルモ本社、14時から以下、その内容。丸茂・大坪・斎藤・川田・宮村・兼松

1、森をつくる

イ、「若柳嵐山の森」：どうしたら森の魅力を伝えられるかをテーマに永遠に進行形の森つくりを進める。施業計画はできているが、これを参考にデザインを描いてみる。丸茂担当。

ロ、「小原本陣の森」：地域の人々との交流を深めながら、地域の人々の意思で認証の森つくりをお手伝いをする。森も深くプロ要請・担い手育成のフィールドとする。

2、森とつなぐ

イ、緑のダム体験学校：この活動の先に「森林環境学」を体系つける。この活動を掘り下げ継続すれば自然になる。3月以降、武藏工大の小堀教授に相談する。

ロ、甲州古道：この活動を通じて新しい森林整備の仕組みつくりができかかっている。

* 森をつなぐ課題は斎藤が担当する。

3、森をいかす

イ、流域材住宅；会員鈴木直子設計士が取り組んでニュースレターに報告している。また、学校机・椅子は2月まで試作し、5月のNFに作品発表する。

ロ、流域の森林広報：流域材を売るには、流域広報が必要である。今年は新たに藤沢NFを加える。

4、資金対策

イ、自己資金：会費・参加費の完全徴収、会員募集。

ロ、緑のダムブランド製品開発：FSC嵐山材の広報と建具組合との提携

ハ、その他の財源確保：県事業の受託、企業との提携による受託

5、かながわ発：世界の森林を守れ運動：別に報告：後述参照

今年の嵐山森林計画

報告：森林整備班

おおよその月ごとの活動計画を、定例活動日に適宜、相談しますので宜しく：園田・大日向

作業する場所と内容

1、D地区への平坦な場所

ボサ刈り、蔓きり、広葉樹でも大きいものは残す。

目的は、欠頂木や傾いた杉を整理する、ここが通常の活動場所となる、なお、2月には境界線の確認をする。林君、よろしく。

2、トチノ木を植林した上の部分、嵐山頂上の真下の崩壊跡地を整備する。残りの朽木を植える。

予定は、春の芽生えの3月、植林は4月。

但し、頂上から見晴らしの悪くならないよう配慮する。弁当持参。

3、まき枯らし

D地区の横を拡大して、結果が見える程度にする。水が吸い上げている時期。

4、甲州古道の竹林整備

笛子峠下山道、中峠茶店・旅籠・屯所のあった場所。

(県の自然公園内にあり許可をとる。森林課技師を同行して整備計画を立てる手配をした。埋もれた史跡発掘の意味もある。甲州古道イベントとして各地古道参加者と協働すると異議が深くなる)

5、夏は、植林地の草刈り

6、バッファーゾーンの倒木整理、環境整備は適宜、FSC推進班の指導で行う。

* 嵐山の森の春季のイベント：作業の兼ね合いも調整しながら進めます。

炊事班から提案

炊事班

「小原本陣の森」でもお昼、暖かいものがあればよいに違いないと思っていました速水さん、白石さんが「作ってもいいよ」と言ってくださいました。そこで提案します。参加費を第一、第三とも400円にしてお昼のおかずは汁物一品にする。昨年から保険料があがり、従来のままでは無理になってきています。巷間、料理の名人は男性が占めていますので、ずいぶんと美味しいものが出来るだろうと思います。

地球の森林を守れ運動について

昨年6月、FSC予備審査を受けるころから森林管理協議会はNGOで、認証機関が株式会社（営利会社）で非営利のNPOが認証審査を受けることに何か、割り切れないものを感じていた。そんな疑問から世界で約700の認証の森でNPOによる取得がどのくらいあるかを知りたいと思った。認証リストを取り寄せて中身を調べると6月末現在で684団体が認証されており内容は、最大がスエーデンの造林会社の202万ha、最小が英国の造園会社POND WOODで16ha。取得団体名からして民間の取得が見当たらないのでSGSに調べてもらったが、それらしきが見つからないという返事を受けた。

地球の森林を守るには、森林専門家より世界の大部分を占める我々のような世界中の普通の人々が立ち上がりこそだと考えた。ならば、当会で表題の行動に移そうということだが何、難しく考えることはない。当会の主張をFSC本部を通じて世界に発信しさえすればよい。そこで、第一信は以下のようになった。英訳は篠田さんと辻田さんにお願いした。10年も続ければ世界の潮流になるだろう。それにしても投稿の内容は余程、勉強しなければ物笑いになるので覚悟も必要だ。

FSCへの第1信：人類が心配です；

NPO法人緑のダム北相模 石村黄仁

NPO法人緑のダム北相模は、東京や横浜から参加する都市勤労者の集団です。そんな私たちが管理する「若柳嵐山の森」が、日本で23番目の「FSC認証林」になりました。世界では710番目くらいでしょうか。都市勤労者の私たちがなぜ、認証林に挑戦したかといえば計算上は、あと325年で地球から森林がなくなるという話を聞いたからです。

(地球の森林面積39億ha／年々減少する森林面積12百万ha = 325年)

空気・水を供給してくれる森林がなく
なれば私たちの子孫は滅亡です。

酸素や水がなくなって子孫が喉をかき
むしって苦しむ姿を思いたくありません。もっと身近な問題は地球温暖化で
す。気候が異常です。

そんな事から私たちのような都会に住
む普通の人々が森の大切さを自覚して
世界の人々に呼びかけねばならない。
そのためには私たち自身が森林を知ら
なければならぬと……思ったか
らです。

1998年11月に活動を開始して8
年が過ぎます。毎月2回の定例活動日を
設けて「雨でも休まず……」と森林整
備を続けて丁度、満8年目の2005年
10月に国際基準の森林管理をしている
と認証されました。ここでやはり、最初
に述べた325という数字が気になります。
世界中の人々がそれに気付いて環境
問題：森林保全に立ち上がらなければ解
決できません。森林破壊という負の遺産
を子孫に残してはなりません。

It is anxious about our posterity.

Koji Ishimura, Non Profit Organization "Midorinodam Kitasagami"

NPO "Midorinodam Kitasagami" is the Group of Citizen Activists who participate from Tokyo and Yokohama, Japan.

"Wakayanagi Arashiyama no Mori Forest" was certificated as The 23rd "FSC Certification Forest" in Japan. It seems to be carried as much as The 710th in the world.

If saying the reason why we, as the citizen activists, tried to challenge to get certification forest, it is because we heard the story that the forest on the earth may vanish completely after 325 years from now according to the following calculation:

3,900,000,000Ha forest area on the earth / 12,000,000Ha forest area,
which decrease every year = 325 years

If the forest supplying air and water vanishes, our posterity will be extinct. We don't want to imagine such scenery, which the posterity suffer from oxygen and water vanishment, so that they tearing at the throat.

Therefore, we have thought……the ordinary people which live in the cities like us, feel the importance of the forest and we have to appeal to the people in the world, for its purpose we ourselves have to know the forest deeply.

We began the activity in November 1998 and 8 years have passed already.
We continued the forest activity regularly two days in every month and being "We don't suspend our activity even in rainy day" and FSC certificated in October 2005 that our forest managements follow international standard, exactly fully 8 years passed.
We are anxious about above figure "325" years. It is impossible to be solved if the people all over the world don't notice environmental problem and don't start to forest conservation.

"Don't leave the negative inheritance, namely forest destruction, to the posterity."

活動アンケート4、回答。

FSC本審査に際して提案されたご意見を公開して活動の見直しとして活用させていただいています。前回までは「活動に対する」ご意見でしたが、今回は「会の運営」に対するご意見です。以下、漸次、検討を加え改善を進めますが皆さんから反論、対案、提案、ご意見をお寄せ下さい。

(情報公開や社会的責任般的に対する意見)

提案：50年後の森林を構想していることは重要だと思います。それを実現するには、継続的な財政・人的資源が必要ではないでしょうか。財政状況が一部しかわからませんので、情報の公開をお願いします。また、支援する会員の拡大や若年層の育成システムの構築が求められるのではないかでしょうか。（県・流域）

回答：県・林務職員が我々の活動に関心を持ってくれて、こんなに厳しい意見を寄せててくれるこ
とに深く感謝します。質問内容は、全てのNPOの共通の最大の悩みです。

先ず、財政面ですが、NPO活動は官と民の間にあって官・民とも、手の届かない「公共のなすべきこと」をNPOが善意・無償で代行して奉仕する活動です。それ故、活動自体に財源となるものはありません。財源は会費か、寄付に仰がねばなりません。西欧では1/10 献金を言う宗教上のシステムがありますが日本にはそれはありません。NPOの解散の85%が資金難で10年以上活動を継続できているのは20%です。私の仕事の8割が資金つくりで木が売れない今、これをどうしたら売れるようになるか（流通経路の問題であろうと）これに取り組んでいます。



初参加の山梨大生

財務の情報公開は、非営利活動と言うものが十分わかってくれるだろうかと言う心配から躊躇しています。第一期総会で余剰金を出したことから分配要求が出て大混乱を起こしました。第三期の今期はFSC認証準備金を367万円積み立てていたこと、県の補助金が出た事で、支援をお願いした自然保護6団体から「貴方の団体は資金が潤沢だ」と支援してもらえず、節約・儉約をかさねて活動を続けています。神奈川県のボランタリースポーツ制度は本格的ですが、県も自らの体験無しでは、理解に限度があり未だ未だと感じています。社会的に未だNPO活動は理解されていません。

人材補充は増えすぎて困っています。育成、これが企業に無い大きな問題です。善意・無償で、むしろ持ち出しで参加してくれる仲間たちに、・・・をして欲しいと有給なら指示・命令は利くでしょうが、絶対にご法度です。その人自身から発露する意思にしか期待できません。人材育成という観点からどうしているか言えば、その人のしたいことの環境つくりを、私がどのように準備できるかにかかっています。

活動開始当初は、時間のある殆ど定年退職後の高齢者でしたが今は、中学生・高校生・大学生が半分を占めています。何故そうなったかは、会が円の組織で上下関係が殆ど無い、すべて自己責任であり指示命令がない、年齢を超えて活動が面白く楽しい、意義があることによります。人的資源は、活動自体が秀でて意義があり、面白く、楽しく継続できるところに善意人材が集り、自らが成長する意識：自己実現の欲求（マズローの五段階説の最上位）に期待せざるを得ません。そうなるような環境つくりをするのが私の役割です。民間団体による多分、「世界初のFSC認証取得」は、正しくその環境つくりに成功した証でしょう。

そして次の目標は「地球の森林を守れ運動」ですが、お仲間たちはキット、それを具現化してくれるものと思っています。1月、FSC本部に一文を投稿し、世界に発信してもらい早速、反応が出てきました。どんな反応かといえば、中国木材公司から上海の木材展に出展して欲しい。米国の自然保護団体から交流しようのアプローチです。

前回は、神奈川材伐出現場での問題点とその後の製材・材木の価格のばらつきに問題があることを話しました。今回は私が神奈川県産材で藤沢に実際に家を建てたことに沿って述べます。

今回大工さんの木拾い書を元に材料を揃えました。構造材と造作材の二種類です。・構造材は住宅金融公庫仕様に基づいていることが多いのでそれほど問題は有りません。造作材は大工さんとの打ち合わせによる木拾い書を元に県産材スギ・ヒノキを揃えました。材の搬入日程も決めたのですが、いざ、現場が始まると材が指定とおりに入らない。大工さんの指定寸法は、その大工さんの仕入れ問屋の在庫品でしたから、私の設計とは違った材料・種類・寸法で規格が統一できませんでした。

悪戦苦闘の連続でしたが、「神奈川県産材で作る」が施主さんとの約束ですから、泣き言やごまかしは出来ません。木には、伸び・縮み・暴れがありますから製材は、仕上がり寸法より大きめに製材して寝かせておきます。注文がある度に1本ずつ製材しなおして、プレナーなどの仕上げをして納めます。在庫が無いので特別対応をしなければなりません。従って、手間費用の加算・納期延期、更に紀州材の例に見るようだ元のコストが違うと、価格差はますます広がります。価格差は広がるからと言って、それを施主様に載せることは出来ませんので、私が泣きました。ハッキリした目標を決めてしていることですから、今回の経験は長い目で見て大いにプラスになりました。

藤沢の施主様のご協力を得て今回学習したことは、当たり前のことが寸法規格を統一する特注対応にしないことです。それをどのように造っていくかが課題です。

「山の木が見える家を造る」・・・T S ウッド組合コンセプト

神奈川の林業は、業として成立するか。需要と供給のバランスを取りながらどのようにするか。神奈川県の場合、大都市に隣接しているので林業で食べなくともやっていける状況にありますので、神奈川ならではの林業政策が必要です。それにしても、行政を含めて山側からの森林の活用の仕方など働きかけが無いようです。

設計士をしている私としては「山の木が見える家造り＝山にお金が掛けられる仕組みづくり」が課題です。生産地と消費地が隣接していることは、解決策の有効な条件です。緑のダム会員として森林NPO仲間とこんな課題に取り組んでいます。

活動のモットー： 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ボチボチと。。。

そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称：さがみ湖・森つくりの会：N P O 法人緑のダム北相模/森林部会
事 務 局：154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9
石村 黄仁 T & F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp/> E-mail : moritomo@rk9.so-net.ne.jp

協働団体：神奈川県(企画部、津久井行政森林部),



ご支援団体：WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川建具組合

東急コミュニティ